



もうすぐクリスマスです。サンタさんのプレゼントが気になる今日この頃です。もともとはイエス・キリストの誕生祝いですが聖書によると「平和を待ち望む日」だそうです。

第2次世界大戦中のクリスマス休戦の日、アメリカの牧師さんが米軍兵士に届けた言葉があります。我々親の心にも響く言葉です。

「神よ、変えることの出来るものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。神よ、変えることの出来ないものについては、それを受け入れるだけの落ち着きを与えたまえ。そして変えることができるものと出来ないものを見分ける知恵を与えたまえ。」

子供が病魔と闘い、命の重さを実感するとき、人と人の殺し合いに参加しようという、時の首相の言動は信じられません。日本は過去の悲劇を忘れてしまったのでしょうか。

私達も牧師の言う勇気と落ち着きと知恵を持ちたいものです。

<第102回 ほほえみの会>

初めての方を含め7人の参加でした

▽ 4歳の男の子、悪性リンパ腫。右あごが腫れているのに幼稚園の先生が気づき市立病院の口腔外科で診てもらった。生検手術で異常がわかりこども病院へ。市立病院の先生の対応が非常に早かった。病名を聞いたときには気が動転して何もわからず医師に紙に書いてもらった。

こども病院で治療のプランも聞いたが具体的にどうなのか、親がどう対応しているのかわからない。母親も仕事を持っているがやめた方がいいのか。

参加者からもいろいろな意見が出ました。

病気が早くわかり、こども病院に転院できたことは良かった。

こども病院の面会時間は以前は午後3時から2時間だけだったが、親の仕事なども多様化していることから12時から20時へと大幅に広げた。面会できる時間になるべく来てほしいという病院側の配慮である。これからの治療は長い戦いになる。母親にも疲れが出るし、兄弟のことや家族のこともあり、自分の人生すべてを病気の子供だけに捧げることは出来ない。その時々で自分が出来る精一杯のことをしていけばいいのではないかと。

一人で考え込むとどうしても悪い方に思ってしまうが、今子供が生きていることに感謝したい。病棟には同じ思いをしている親もたくさんいる。笑って前向きに生きたい。

▽ 肝芽腫で治療に入ったが、治療後も腫瘍が小さくなっていない。これから強い薬に変えるという。子供があんなに治療を頑張ったのにも思い落ち込む。自分ひとりで悪い方に思い込み落ち込んでいってしまう。

治療で腫瘍が小さくならないのは多くの方が経験している。うちの子も回数を重ねてから効果が出た。

こども病院は最新の高度医療を受けられるので医療面では心配は要らない。親には何が出来るのだろうか。

子供自身は病棟や治療というストレスの中で頑張っていて親には甘えたいだろう。また親の顔色を敏感に感じとって入る。もっと気楽に考えて子供に接し、目一杯の笑顔を送って安心できるようにしてあげればいいのではないかと。

子供は小さい頃の辛かった治療のことはあまり覚えていない。親が思う以上に子供はたくましい。

来年はいい年でありますように。良いお年をお迎え下さい。

次回は 1月11日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>